

## 兵庫県COEプログラム推進事業 研究結果概要

### 研究プロジェクトの概要

研究プロジェクト名	アトピー性皮膚炎を誘発するキー物質の究明
代表機関	株式会社ビオスタ
共同研究チーム構成機関	神戸大学農学部・医学部
研究分野	健康分野

### 研究結果の概要

<p>【 研究プロジェクトの概要、特色】</p> <p>現在、アトピー性皮膚炎の原因は明確になっておらず、その抑制は専ら対症療法に頼っている。本研究は、アトピー性皮膚炎の原因となる物質を究明する事にある。本研究により、これらの物質が明らかとなれば、医薬品の開発のみならず、その評価系の簡略化、家庭内での抑止商品の開発にも繋がる。</p>
<p>【 研究の成果】</p> <p>コナヒョウヒダニを成分として、反復塗布し作製されるアトピー性皮膚炎疾患モデルは、抽出残渣により効率的に皮膚炎が誘発されている可能性が高い。主要抗原である Derf I や Derf II を含む画分が感作抗原として重要若しくは抗原性が高いことは従前の報告と共通した結果であった。加熱や大容量の高濃度食塩水による抽出によっても、皮膚炎誘発率が担保されたことから、環境中のコナヒョウヒダニ由来抗原が安定して長期間住環境に存在する可能性が示唆され、その検出と解析が重要であると考えられる。</p>
<p>【 本格的研究への展開】</p> <p>本研究の一部成果をバイオビジネスコンペ JAPAN に応募した。特許取得後の応募が望ましいとの理由から一次予選で落選したが、大阪府商工会議所を通じて審査委員を務めた企業から詳細資料を求められた。現在、資料を提出し、回答待ちである。また、一部成果が経皮的抗原侵入防止を目的とした製品開発へ応用できる可能性が示されたので、池田銀行コンソーシアム研究開発助成金へ応募した(2007年12月17日)。本研究にて残された課題を解決するため、JST 独創的シーズ展開事業委託開発へ応募する。</p>
<p>【 今後の事業化に向けた展開】</p> <p>既に、試薬として販売中である。病態モデルとしての特性を明らかにし、発症効率を高め、製薬各社や研究機関に採用される精度を高める。また、アトピー性皮膚炎の掻痒に関するメカニズムは未だ明確になっていない。本モデルを利用して、そのメカニズムの解明を試みる。</p>
<p>【 地域的波及効果】(技術基盤強化等の効果、地域社会・経済発展への寄与)</p> <p>本疾患モデルを利用して、開発された医薬品が新薬開発プロセスへ進んでいる。また、機能性食品や化粧品などの評価にも採用されつつある。</p>